

平成30年度環境保全型農業効果調査事業結果

2 環境保全型農業に対する消費者意識

令和元年8月

農林水産省

調査手法と実施概要

【調査対象】 20歳以上の男女（調査会社のモニター登録者）

【調査手法】 オンラインによる質問紙調査

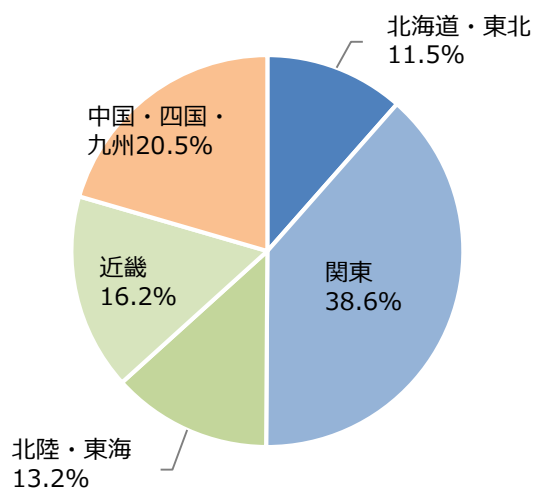
【調査日時】 調査：平成30年11月26日～27日

【サンプルサイズ】：2,185サンプル

全国5地域（北海道・東北／関東／北陸・東海／近畿／中国・四国・九州）
別に人口規模に応じて割付

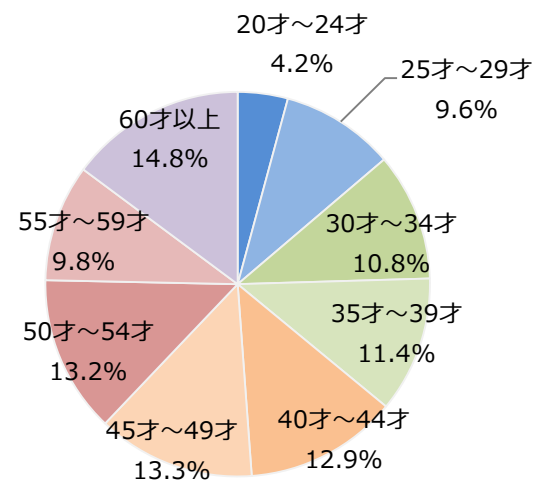
居住地域

(n=2,185)



調査対象者の年齢構成

(n=2,185)

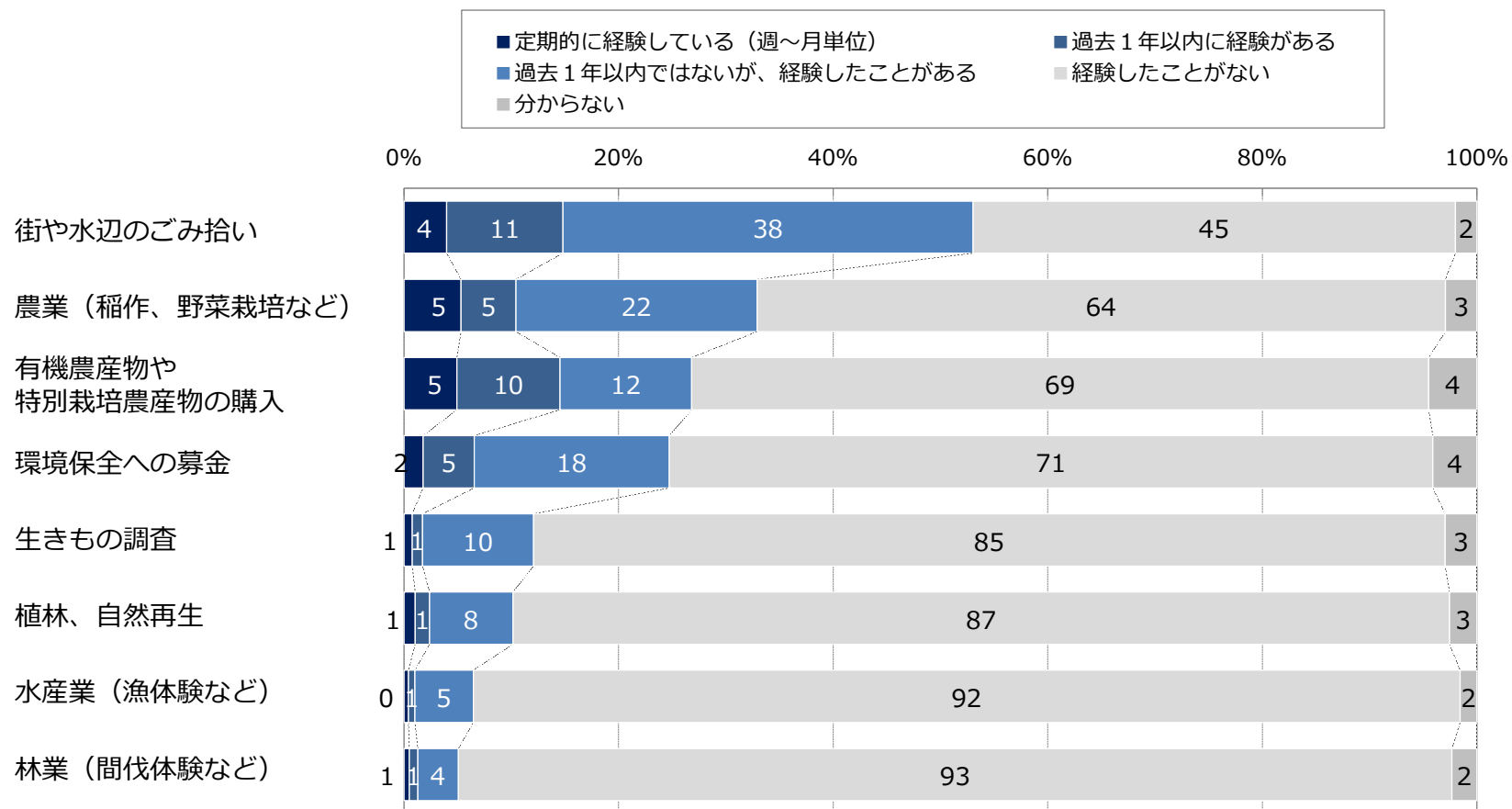


農業・環境保全活動の経験の有無

- 農業・環境保全活動の経験について、頻度を問わず「経験がある」と回答したのは、“街や水辺のごみ拾い”（53%）が最も多く、次いで“農業（稲作、野菜栽培など）”（33%）であった。

農業・環境保全活動の経験の有無

あなたはこれまでに以下の活動の経験がありますか。それぞれの項目について、最もあてはまるものを1つお選びください。(n=2,185)

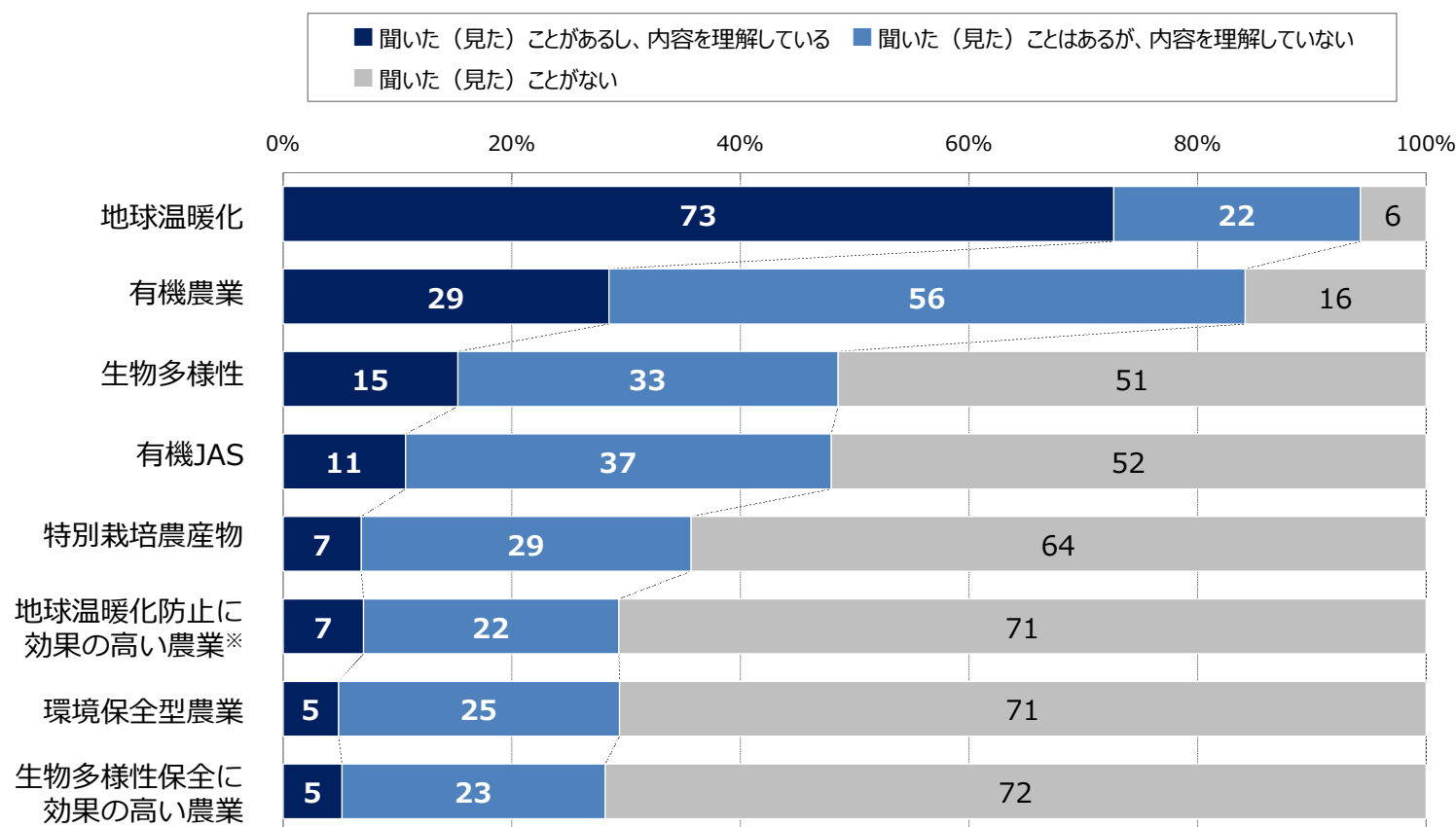


環境保全型農業に関する言葉・取組の認知度

- 環境保全型農産物・取組への認知度について、「聞いた（見た）ことがあるし、内容を理解している」のは“地球温暖化”（73%）が最も多かった。一方、「聞いた（見た）ことはあるが、内容を理解していない」のは“有機農業”（56%）が最も多かった。

言葉・ラベル・取組の認知度

あなたは以下について知っていますか。それぞれの項目について、最もあてはまるものを1つお選びください。(n=2,185)



※ 項目の提示の際には農業施設の省エネ対策と混同しないよう、（農地土壌中に有機物をまくことで、大気中の炭素の量を減らす取組）とカッコ書きで追記した。

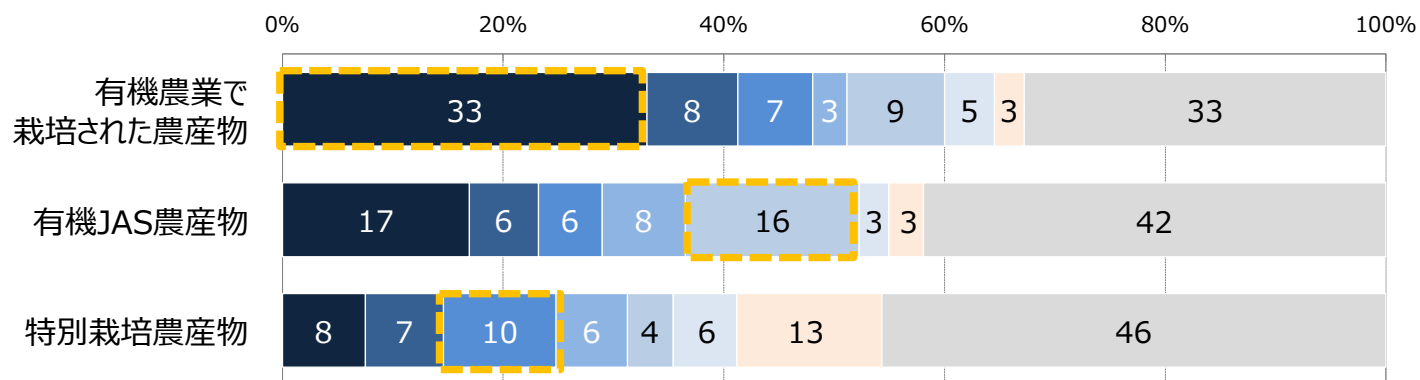
環境保全型農業に関する言葉・取組の理解度

- 環境保全型農業により栽培された農作物について、複数選択肢の中から適切なものを選ぶ形で理解度を問うたところ、適切な選択肢を選んだ割合が“有機農業で栽培された農産物”で33%、“有機JAS農産物”で16%、“特別栽培農産物”で10%であった。

各環境保全型農産物の理解度

以下の各農産物の説明として、最も適切だと思うものを以下の選択肢の中から1つ選んでください。（n=2,185）

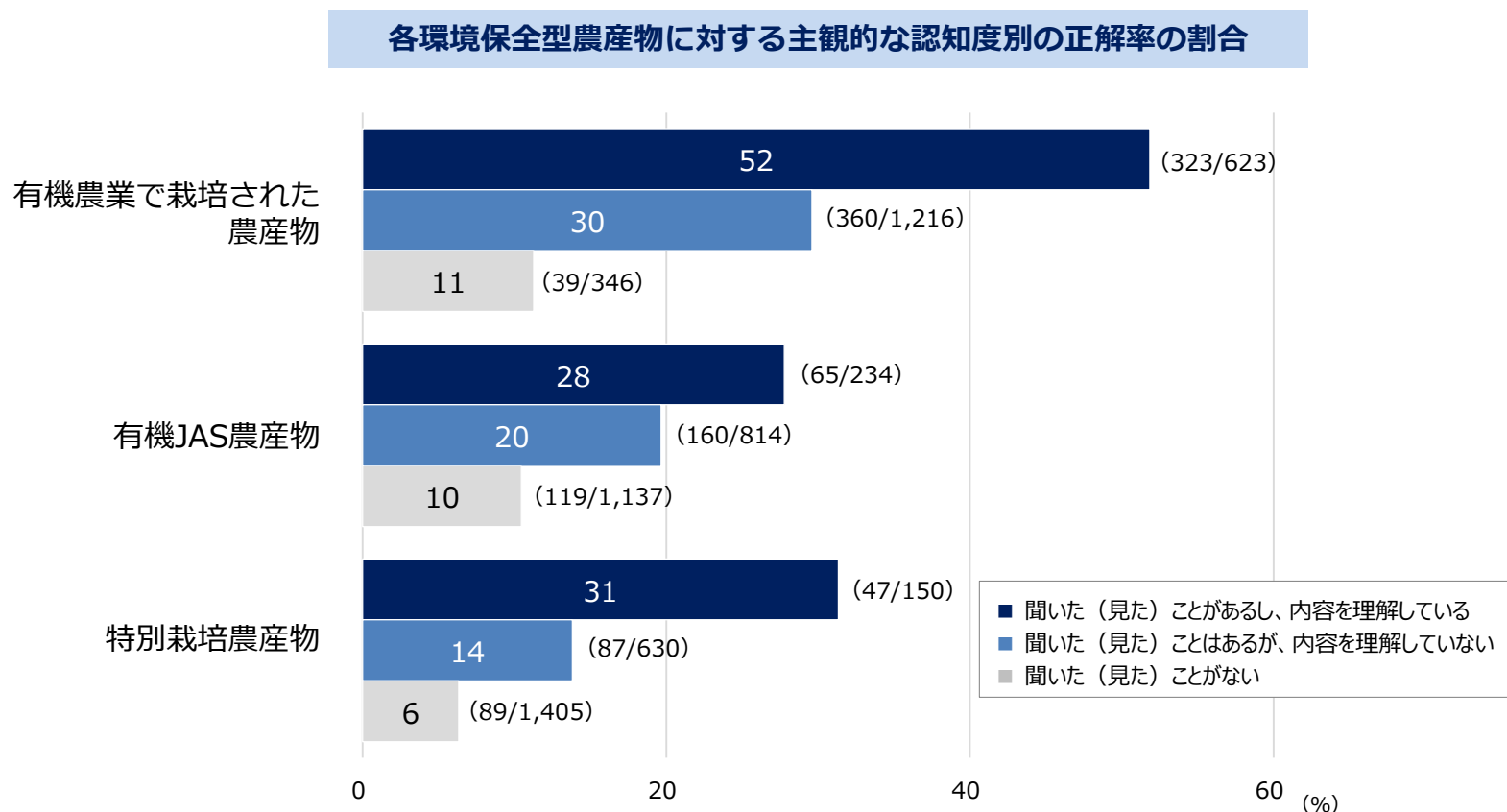
- 化学的に合成された肥料および農薬を使用しないことを基本とする生産方法で栽培された農産物 ← 有機農業で栽培された農産物
- 人の手をなるべく加えずに、より自然・天然な環境で栽培された農産物
- その農産物が生産された地域の一般的なレベルに比べて、農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素分量が50%以下で栽培された農産物 ← 特別栽培農産物
- 有機JAS農産物の中で最も高い格付けをされた農産物
- 有機農産物の日本農林規格に定められた基準に従って栽培された農産物 ← 有機JAS農産物
- 安全性が確認された農薬および肥料のみで栽培された農産物
- 特別な技術で栽培された農産物
- 分からない



適切な選択肢を選んだ割合

主観的な認知度と理解度の関係（クロス集計）

- 各環境保全型農産物に対する認知度と、それぞれの意味を正しく理解している人の割合との関係をみると、「聞いた（見た）ことがあるし、内容を理解している」人による正解率が最も高く、次に「聞いた（見た）ことはあるが、内容を理解していない」人による正解率が続いた。
- 「内容を理解している」人に限った場合の正解率を比較すると、“有機農業で栽培された農産物”では52%と比較的高かったのに比べ、“有機JAS農産物”では28%、“特別栽培農産物”では31%にとどまった。

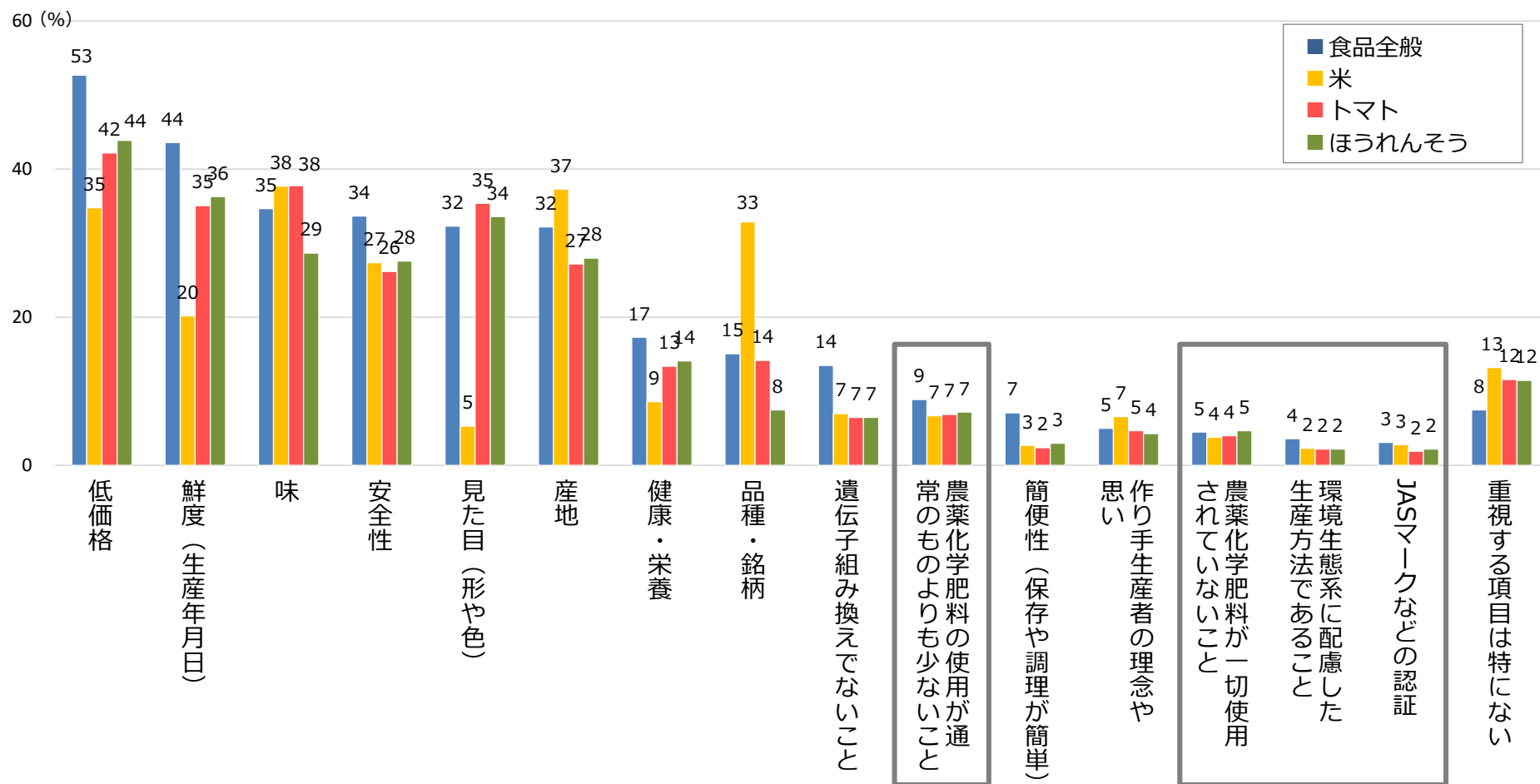


食品の購入時に重視する項目

- 食品全般では、“低価格” “鮮度” “味” “安全性” “見た目”が重視された。
- トマト、ほうれんそうは、米と比較して、“鮮度”や“見た目”が重視され、一方、米は“産地”や“品種・銘柄”が重視された。
- 環境への配慮に関する項目は総じて、重視される割合が低かった。

購入時に重視する項目

あなたが食品全般、米、トマト、ほうれんそうを購入する際に重視する項目を、以下の選択肢からあてはまるものすべてお選びください。（n = 2,185）

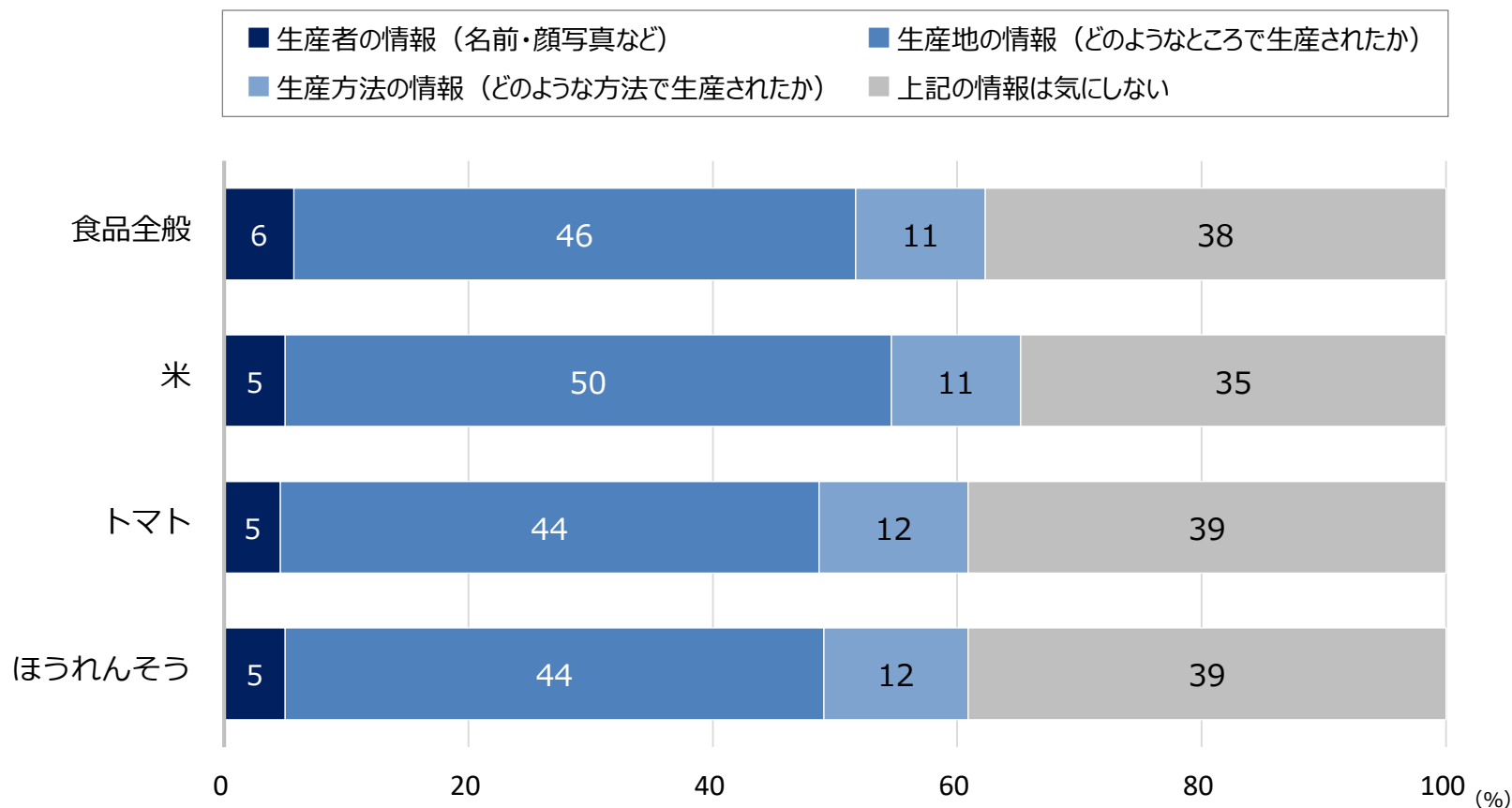


生産者や生産方法の情報に対する関心

- 生産者や生産方法の情報について関心があるのは、どの食品カテゴリーにおいても「生産地の情報（どのようなところで生産されたか）」が4～5割と最も多く、「上記の情報は気にしない」も3～4割あった。

生産者情報への関心

あなたは、食品全般・米・トマト・ほうれんそうを購入する際に、生産者のどのような情報を最も気にしますか。以下の選択肢の中から1つ選んでください（n=2,185）

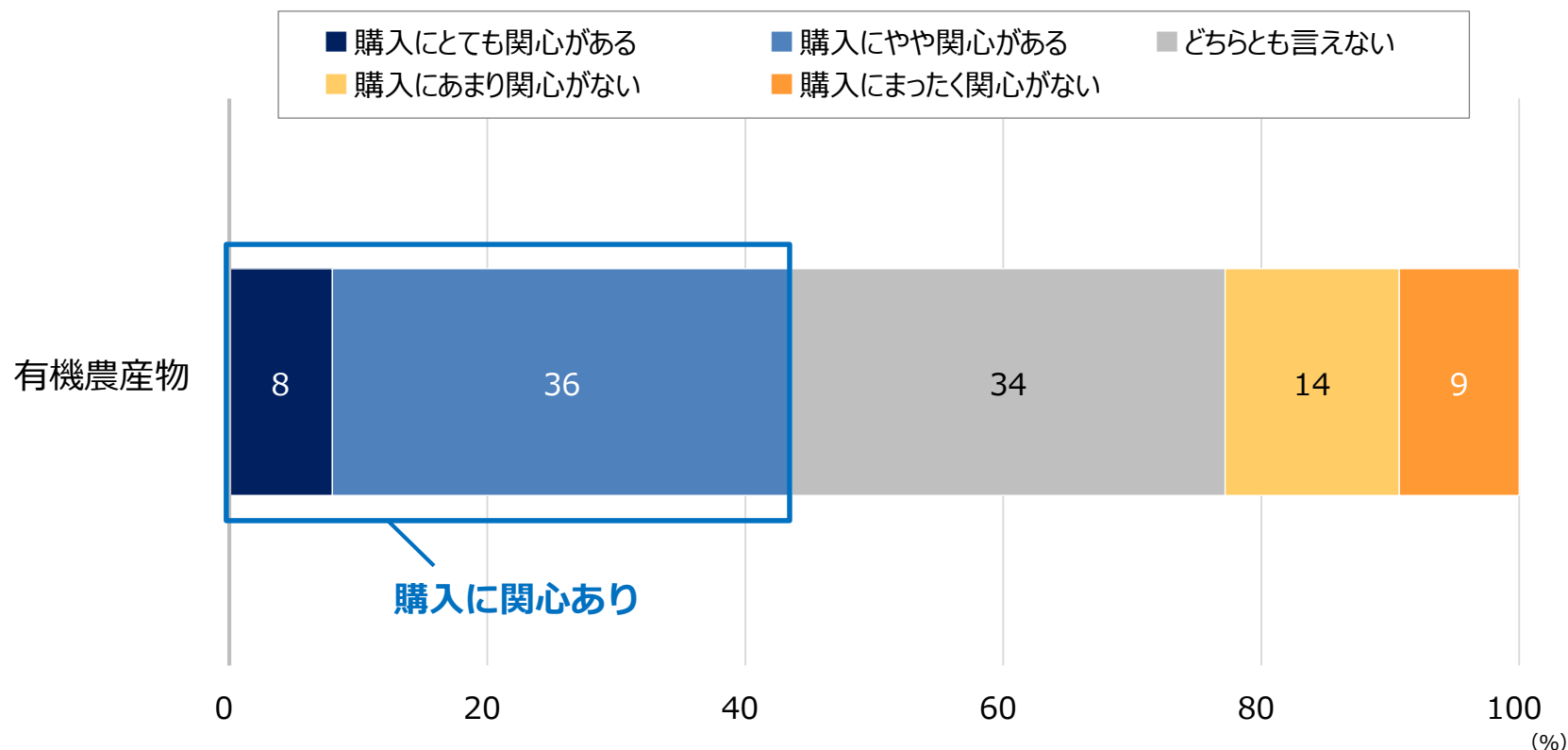


有機農産物の購買意欲

- 環境保全型農業の取組をあらかじめ提示した上で、有機農産物を買うことにどれくらい関心があるか聞いたところ、「購入にとっても関心がある」と「購入にやや関心がある」を合わせて4割強の回答者が購入に「関心がある」と答えた。

購買意欲

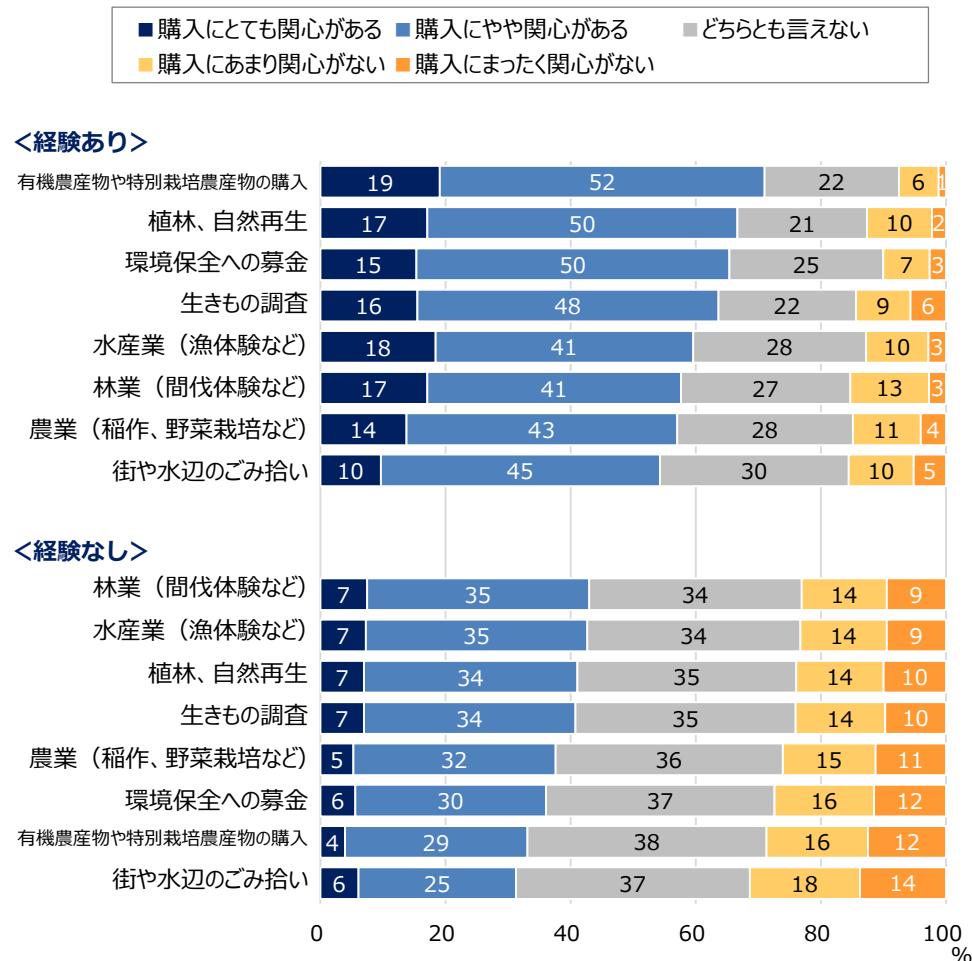
あなたは、環境保全型農業の取組を知ったうえで、有機農産物を買うことにどれくらい関心を持ちますか。それぞれの項目について最もあてはまるものを1つお選びください。（n=2,185）



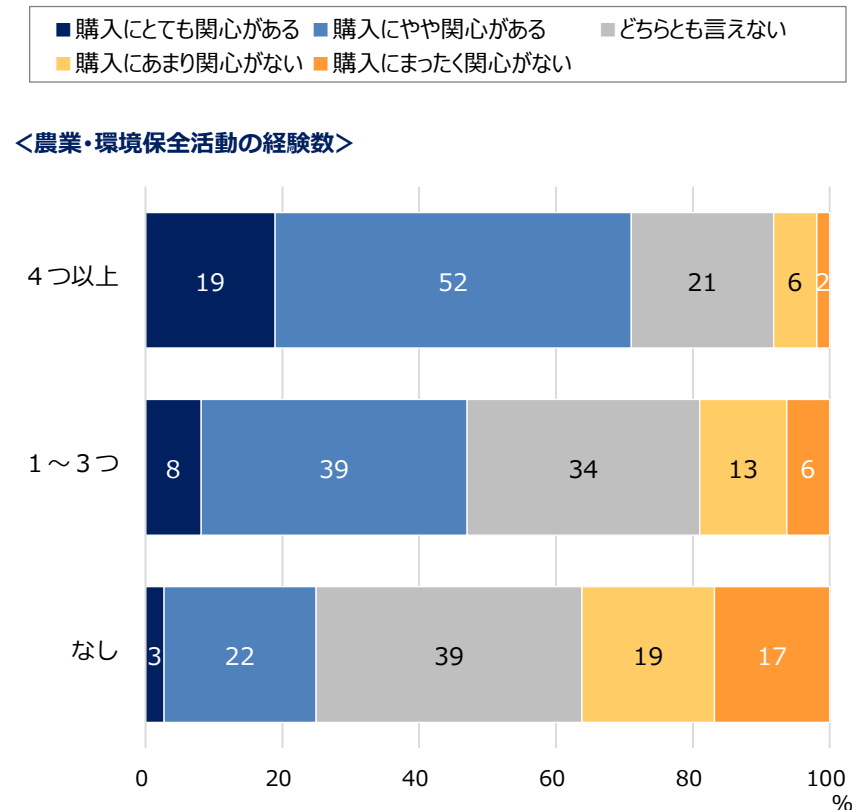
農業・環境保全活動経験と有機農産物の購買意欲の関係（クロス集計）

- “有機農産物や特別栽培農産物の購入”や“植林、自然再生”、“環境保全への募金活動”の経験がある者ほど、有機農産物の購買意欲が高いことが示された。
- また、活動経験数が多い人ほど、有機農産物の購買意欲が高いことが示された。

環境保全活動の経験内容別の有機農産物購買意欲の割合



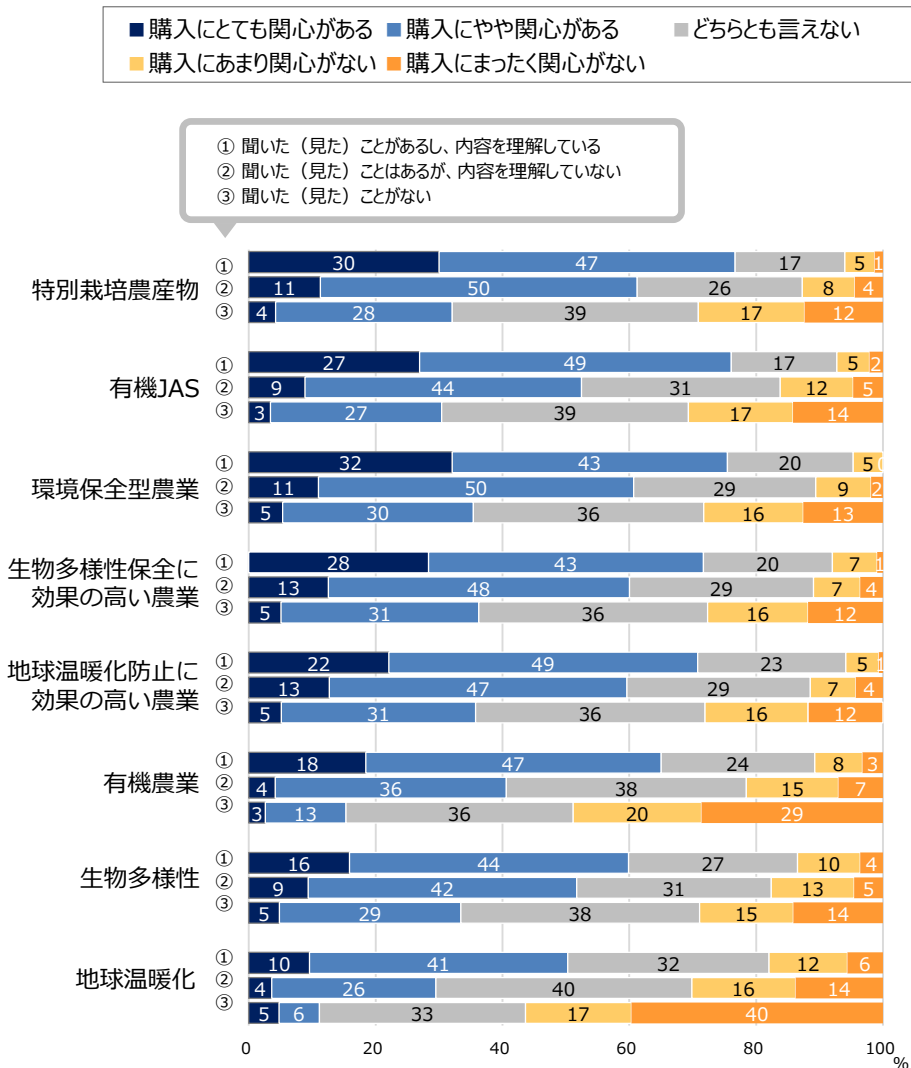
環境保全活動の経験数別の有機農産物購買意欲の割合



各項目に対する認知度と有機農産物の購買意欲の関係（クロス集計）

- 環境保全型農業の取組内容や言葉の意味を理解していると考えている人ほど、有機農産物購買意欲が高い傾向が示された。

環境保全型農業の認知度別の有機農産物購買意欲の割合



環境保全型農業の認知数別の有機農産物購買意欲の割合

